



## 新入社員編

1 1981年（S56年）10月9日

全日本プロレス 創立10周年記念ジャイアントシリーズ 蔵前国技館大会

ジャイアント馬場 T・J・シン

B・サンマルチノ 上田馬之助

ジャンボ鶴田対リック・フレアー

ドリーファンク Jr 対B・プロディ

マイティ井上対M・マスカラス

千里眼も東京で会社勤めとなった時代。最初のうちは大人しくてまじめな？新入社員だったわけだが、どうにも血が騒ぎ遂に会場に出かけたのがこの全日の蔵前。実はこの前日に同じ蔵前国技館で猪木率いる新日本プロレスの10周年大会があり、いわゆる興行戦争の真っ只中であった。当時の思い出や状況を簡単に語ることにしよう。とにかく本来おめでたい〇〇周年記念などという席を戦争の舞台にしようというんだから、まあプロレスの世界は一般社会じゃ受け入れられないのは否定できない。普段は社会的認知がどうたらこうたらと言っておきながら相手の記念興行の前日に同じ場所で興行を行うという面当てがましい非常識なことを仕掛けるアントニオ猪木という人間を当時好きになれなかった。したがって千里眼は当然全日派だったわけ。で、ばかばかしい考えだが当時は本当に客入りの多い団体が勝ちという風にファンは思い込み、ひいき団体を応援すべく会場に駆けつけてたわけ。恥ずかしながら千里眼もそのひとり。「俺が行ってやれば馬場が、そして全日が勝利する」馬鹿馬鹿しいでしょ？

後に唖然としたのは、同じような発想で千里眼の相棒は新日の国技館に駆けつけていた、ということ。まるで関ヶ原か川中島で雑兵として両軍に分かれて参戦していたようなもの。

いいおとながふたり、なにやってたんだか。

当時のNWAやWWWFといったアメリカメジャー団体まで巻き込んだ2日間の興行戦争の参加選手や全カードは歴史的価値充分。日本人でも新人時代の前田口明や三沢光晴が出演している。後日、別な文章で公開しましょう。乞うご期待。

2 1982年（S57年）8月5日  
新日本プロレス 蔵前国技館大会  
藤波辰己対ボブ・バックランド  
タイガーマスク対ダイナマイト・キッド

全日派のはずの千里眼も空前の大ブームのタイガーマスクを見るために新日の会場に初登場。

実は当時勤めていた会社の営業連中からタダ券が廻ってきただけのこと。しかも当日の夜7時ころに廻ってきたので実はメインの2試合しか見ていない。なので正式には観戦記にはカウントできないかな、とも思うけれどもなにせ当時はタイガースームの真っ只中、しかも相手が宿敵ダイナマイト・キッドというものを目撃できたということでここに載せておく。

とにかく今までにないすばやい動き。それはあの独特なステップに象徴している。今にしてみればボクシングのアリのステップに似てるといえなくもない。それと不必要なまでにバック転を連発することも特徴だった。

この日は場外にキッドをダイレクトにプレーンバスターで投げるといふ、お互いの協力なしにはできない離れ技も出た。

しかし千里眼もまだ若かったのでメインのボブ・バックランドに何も感じられなかった。前座も見えてないのでこの頃の新日ストロングスタイルとはどんなものだったかコメントできないのが残念。